

子どもの“夢実現”を応援する教育情報誌

2024年1月18日発行 毎月18日発行 第14巻第12号 定価880円(本体800円+税10%)

# Dream Navi

[ドリーム・ナビ]

3

March 2024

School  
Navi  
Principal Interview

学校選びや子育てのヒントがいっぱい!

## 人気中学校 校長先生インタビュー

子どもの頃のエピソード、思春期の葛藤、  
教師になるまでの道のり……。

学校説明会ではなかなか聞けない話が満載の校長先生インタビュー。

最後に語られるのは、  
学校や教育、そして生徒たちへの熱い想いです。



大妻嵐山中学校・  
高等学校

榎本 克哉 校長先生

interview  
#2



# 引き出す “ヤル気” を

自ら考え、自ら学ぶ力



今こそ考えたい!  
「文理横断教育」の重要性

No.1はこれだ!  
ランキングde学ぶ日本のヒミツ

## 中学校では野球、 高校ではラグビーに熱中

私は東京都世田谷区で生まれ、小学5年生のときに父の故郷である埼玉県鴻巣市に引っ越しました。子どもの頃はカエルやカブトムシを捕まえたり、野球をしたり、秘密基地をつくったりと外遊びに夢中になっていました。中学校時代は野球部に入って野球ざんまいの日々。私はのちに教員として約15年にわたり、テニス、野球、ラグビー、サッカーなどスポーツ指導に深く関わることになるのですが、その出発点は、自分自身スポーツが好きで、部活に打ち込んだ中学校時代にあったと思います。

ただ、野球熱は中学の部活の引退と共に冷めて、次に惹かれたのはラグビーです。その頃、早稲田大学ラグビー部が連戦連勝の活躍を見せていて、そ

の中に、のちに日本ラグビー界の功労者となる宿沢広朗さんがいました。私はその姿に憧れ、ラグビー部がある県立松山高校という男子校に進むことに。そこで宿沢さんと同じ、スクラムハーフというゲームメイクをするポジションになり、2年生のときには強敵揃いの県大会でベスト4になりました。ラグビーに明け暮れた高校での3年間は、本当に楽しかったですね。

## 大学で 経験した挫折

大学は早稲田ラグビーに憧れを抱いていたため、迷わず早稲田大学を目指し教育学部に入学しました。幼少期から、特に具体的な将来の夢はなかったのですが、それでも教育学部を選んだのは、何かしら自分の未来に対する働きが働いていたのかもしれない。大学では1年時にラグビーで大ケガ

を負い、半年近くの入院生活を余儀なくされました。ケガがきっかけとなりラグビーからは離れてしまい、しばらくは目標を見失って大学からも足が遠のき、その結果、大学1年時の単位はほとんど取れずに終わってしまいました。

そんな中「このままではダメだ」と、友だちがいさめてくれて……。おかげで自分を見つめ直し、大学2年時より、ようやく大学生活をスタートさせることになりました。

人は目的を失うと自暴自棄になる。ということを知ったわけですが、心に強く決めた目標があったとしても、途中で考えが変わったり、挫折したりすることはあります。だからこそ「思い通りにならなくても焦らなくていいのだ」ということは、自分の経験から今、生徒たちに伝えたいメッセージの一つとなっています。



全国から推薦された社会科教員と韓国の社会科教員との交流研修「社会科教師研修」のときに撮影したものです。

album  
full of  
memories

学力だけでなく、他者へのリスペクトや  
礼儀、感謝などの「大妻精神」を持った  
女性を育てたいですね。

大妻嵐山  
中学校・高等学校  
えのもと かつや  
榎本 克哉  
校長先生

の表情は、今でも鮮明に思い出されます。教師が本気になって生徒と対峙することの大切さを改めて学ぶことができた貴重な主幹時代だったと思います。

校長として最初に赴任したのは、県内で唯一の病弱特別支援単独校です。ここでは、ターミナルを迎えた子どもたちや教員が病んでしまった子どもたちを前に、教員として、そして校長としてどう対峙し、どう向き合っていたらいいのかわからず、試行錯誤の日でした。しかし一方で、教育の原点に立ち返ると共に子どもたちと一緒に悩み苦しむ、命と向き合う人としての自らをブラッシュアップできた時代でもありました。

県立高校の校長として最後に勤めたのは、県北西部の女子校です。この学校は伝統校であるものの近年、地域の人口減少のおりを受けて、生徒募集に苦慮している状況でした。そこで、市の観光大使や市のPRビデオ制作、ラグビートップリーグでの書道パフォーマンスなど地域との連携を密にすることで、高倍率を実現し、伝統校としてのV字回復に成功しました。

大妻嵐山には県立高校の定年退職を機に声をかけていただきました。大妻嵐山では、地域とのつながりを大切に力を入れていきます。嵐山の地に開校して50年以上になるのですが、いまだに「遠方から通ってきているお嬢さんたちの学校」というイメージを持つ

榎本先生が教える

## 子育てのヒント

積極性を育てる声かけを

生徒たちを見ていると、何かを躊躇するときにはたいてい「できないのではないか」ということを考えています。でも大切なのは「できるか、できないか」ではなく「やるか、やらないか」です。その姿勢を身につけさせるには、子どもが行動を起こした事実をほめてあげること。たとえ失敗しても、「やろうとしたこと自体がすごい」と伝えてあげてください。子どもたちが「やらないよりやったほうが良い」という視点で、積極的にチャレンジできるようにしたいですね。



山梨（清里・小瀬沢方面）に遠足の下見に出かけたときの1枚。

album  
full of  
memories

# 生徒が積極的に学校の外に出て 地域貢献を通して成長できるような 機会づくりに注力しています。

ている地域の方々がいます。そこで、「SSR」という標語を掲げて、さまざまな取り組みを始めています。この「SSR」とは、企業の社会的責任を指す「CSR」を学校に置き換えたもので、学校の機能や教育資源を生かして地域に貢献していくという考え方です。たとえば本校の生徒が地域の小学生に英語やダンスを教えたり、本校の施設を開放してイベントを開催したりしています。また、町の教育委員会との連携も増やしています。これは生徒にとっても、多様な経験を

積んで人間力を高める機会になると思っています。本校の生徒には積極的に学校の外に出て、いずれは「社会で活躍できる女性」になってほしいと願っています。学力のみならず、他者への思いやりやリスベクト、礼儀、感謝といった「大妻精神」を併せ持った人です。そして、できるかどうかを気にするよりも、まず一歩踏み出す姿勢を身につけてほしい。そのために本校では、成長する場をたくさん提供していきたいと思っています。

album  
full of  
memories



全国から推薦された  
中学教員に対して筑波  
で行われた研修で、  
メディアトレーニング  
をしている際の様子。

## 旅行代理店勤務から 高校教師に転身

大学卒業後は旅行代理店に就職しました。当時はパブル景気で、視察や親睦を目的とした企業の団体旅行が盛んだったので、私もそういつた旅行を企画し、さらに添乗員としてたくさんの方に同行しました。とても貴重な経験でしたが、3年ほど経って仕事に慣れた頃「この先も今のままでいいのだろうか。ほかにするべきことがあるのではないか」と思うようになって……。そこで教師になろうと思ひ、会社を辞め、2年がかりで埼玉県の高校教員試験に合格。30歳の手前、社会科の教師として教壇に立つことになりました。

最初に配属されたのは、川口市立の女子校で、スポーツがとても盛んな学校でした。私はソフトテニス部の顧問を任されましたが専門外だったので、部員を連れて各地に遠征しながら、指導者研修を受けて勉強しました。同校

にいた8年間で、県大会で準優勝し、インターハイ出場を果たしたのが最高成績です。

次の勤務先は県北の伝統ある男子校。念願かなってラグビー部の顧問になり、3年目には県大会で優勝して、選抜大会に出場しました。しかし、その翌年のチームはさらにスピードや体格など個々のポテンシャルに恵まれていたにもかかわらず、その力に見合った成績を残せませんでした。

振り返ると今でも自分自身の不甲斐なさに自責の念に駆られるのですが、指導しているチームや生徒たちが県内で強豪としてトップレベルの力を身につけていくと、その状況に満足してしまい、私自身がさらに上を目指す気持ちを持っていないことが部活動指導者としての自身の弱みとなってしまいました。

このように部活動指導者としての資質に限界を感じていた頃に、自身の教育に対する情熱を評価してください。当時の管理職の先生から、その情熱を今度は違った視点で違った立場で生徒に還元してみないかと声をかけられました。そして、迷いはあったものの管理職の道を歩むことにしたのです。

## 公立校での多様な経験を 大妻嵐山で生かす

管理職試験に合格した後、主幹として最初に配属されたのは埼玉県の昼夜開校の定時制高校でした。生徒の8割は不登校、2割は他の高校から転入して入学してきた生徒たちです。

私は主幹としての校務の傍ら野球部の顧問として生徒たちと共に部活動に励みました。生徒たちの多くは成功体験に乏しく、心に大きな傷を負っている生徒も少なくありませんでした。その中で、野球を通じてお互いが本音で語り合い、本音で勝負する時間を共有することで教師に対して何かと反発していたヤンチャな生徒たちも徐々に心を開いてくれて……。そして、2、3人でスタートした野球部も、3年目には埼玉県の定時制通信制の県大会で準優勝するまでの強豪校になりました。そこで見られた生徒たちの喜びの表情と、彼らの本気度を感じさせた決勝で負けたときの涙にくれる悔しさ





12.生徒全員が「本気で、全力で、」取り組む体育祭。応援合戦で熱気も生徒の怒いも最高潮に。3.大妻女子大学を見学し、附高校生徒としての意識を醸成する。4.5.さまざまな発表や展示が行われる大妻祭。生徒が全力で取り組み、全力を出し切り、全力で楽しむ。6.語学力を高めるだけでなく、国際性や豊かな感性を身につけるため、さまざまな海外研修・留学制度がある。7.中国の生徒が来校しての交流授業。8.中学2年生のときにキャリア教育として行われる職業体験。9.タブレットを駆使し、ICTを活用した授業を展開。10.中学2年生が実施している英会話合宿。英語漬けの3日間を送る。11.国際人としての品格や知識を養う礼法指導（茶道）。12.13.実験中心の理科の授業。科学的素養と論理的思考力を高める。

school  
information

## 大妻嵐山 中学校・高等学校

自律心の大切さを伝える  
「恥を知れ」の言葉を校訓に、  
社会に貢献できる女性を育てる  
同校の魅力に迫ります。

所在地/埼玉県比叡郡嵐山町菅谷558  
TEL./0493-62-2281  
アクセス/東武東上線武蔵嵐山駅から徒歩13分  
<https://www.otsuma-ranzan.ed.jp/>



大妻嵐山中学校・高等学校は、埼玉県比叡郡中央に位置する嵐山町にある女子校です。大妻女子大学を創立した大妻コタカを学祖として1967年に高校が、2003年に中学校が開校しました。「学芸を修めて人類のために」を建学の精神に掲げ、社会に貢献できる自立した女性の育成を目指しています。

同校の魅力としてまず挙げられるのが、学校社会貢献活動（SSR）です。教員や生徒が持つている知識やスキルを地域の人に還元したり、学校の施設を開放したりと、学校全体で町に新たな価値を創出しようとして取り組んでいます。中でも、生徒が授業や部活動で習得したことを地元の小学生たちに教える「わくわくワークショップ」は、延べ2000人以上が参加している大人気企画。生徒たちも、こうした挑戦から多くの経験を積み、人間力を磨いています。

学びにおいては「グローバル＆サイエンス」をキーワードに、多彩なプログラムを展開しています。グローバル教育では、ネイティブ講師によるマンツーマンのオンライン英会話などで語学力を伸ばすと共に、異文化交流や海外研修、海外で活躍する女性の講演会などを通じて視野を広げていきます。中学校では全年齢が参加する

「イングリッシュカフェスタイル」という行事があり、英語劇を発表することで、英語で表現する楽しさを体験します。

サイエンス教育では、実験を中心とした理科の授業で、他の教科にも通じる論理的思考と問題解決力を身につけます。学校周辺の豊かな自然環境を生かし、中学1年次には園樂・オオムラサキの飼育観察をする機会も。研究成果は「サイエンス発表会」でプレゼンします。

この他にも全教科でアクティブラーニングを導入。同校では、教師も学び続けることを重視していて、研究熱心な先生たちが生徒の学びを支えていることも見落とせない点です。

進路指導においては、大妻女子大学附属校の強みを生かしつつ、他大学への進学もバックアップ。指定校推薦の実績は120大学を超え、さらに選抜方法に応じた個別対策も実施しています。保護者が参加できる進路行事も多く、親子で進路を考える機会も設けられています。

専門的な知識と技能、豊かな人間性を備えた女性を数多く輩出してきた大妻学院の精神を受け継ぎながら、自分らしく社会に貢献する道を探究できる環境。それが同校の強みと言えるでしょう。